令和6年度

幼稚園だより　3月号

文京区立小日向台町幼稚園

つなぐ・つながる子どもの輪

園長　　小岩井　聡

園庭を見渡すと、梅や菜の花は早々に咲き誇り、桜のつぼみが膨らみ、クロッカスやチューリップの芽もぐんぐんと伸び、春が至る所に感じられます。三寒四温の言葉通り、寒さと温かさを繰り返し、確実に春が近付いてきています。

さて、毎年この時期になると、年長組から年中組に、次年度に向けての様々な引継ぎが行われます。次代の年長さんに、今まで年長児が責任をもって行ってきたことをつなげていくための大切な引継ぎです。引き継ぐのは、誕生会の司会やウサギのお世話の仕方など、それもグループに分かれて、伝えていきます。

先日、幼稚園で２月生まれの誕生会が行われました。２月の誕生会から、年中組への司会の引継ぎが行われます。年中組からすると、今まで見ていた「司会」を今度は自分たちが行うということで緊張の面持ちでした。それぞれの司会によってグループを作り、年長児と年中児が一緒に練習をし、当日はそのグループごとに座って、一緒に舞台前の司会の場所に行き、司会の言葉を言います。

今年度の様子を見ていて、ふと、感じたことがありました。緊張しながら待っている年中児の手をしっかりと握って言葉を言ったり、出入りの時にも手をつないでサポートしてあげたりという姿が至る所に見られました。手をつなぐというかんたんなことのようですが、それが、何人もの年中児の緊張を和らげたことでしょう。また、声を揃えて言うときにも、年長児は声が揃うように、優しく年中児の方を覗き込みながら「せーの」と声を掛けていました。その先輩たちの配慮もあって、無事に年長・中合同の誕生会の司会は、最後までやり遂げることができました。３月には年中組だけで頑張りますが、その時にはきっと我が子を見守る親のように、手に汗握りながら参加する年長児が多いことでしょう。

そのような年長児の様子を見ていて「優しさ」が溢れているように感じます。司会の引継ぎとしては、教えてあげること、一緒に言うことだけでなく、年中児が困らないように、緊張しないように支えることが、手をつなぐという行為に表れていたのだと思います。ごく自然に、当たり前のように手を出してあげられる子どもたちの姿を見ていると、その根底には友達とのつながりを大切にしてきた子ども達の成長を感じずにはいられません。そんな何気なく「優しさ」を示してあげられる子ども達の姿に、見ているこちらも嬉しくなりました。

修了、終業まで残りわずかとなった３学期ですが、最後まで子どもたちの、人との関わりをしっかりと育み、新たなステージでもその力を十分に発揮して、人との関わりをつないでくれることを期待します。

最後になりますが、今年度も、保護者の皆様、地域の皆様方には本園の教育活動に多大なるご理解とご協力いただきましたこと、御礼申し上げます。ありがとうございました。

みんなで声をそろえて「せーの」！